



授業中、板書を全部写す人、大事だと思ったところだけ写す人、先生や友達が言った言葉も書いている人、全く写さない人、みなさんはどれに当てはまりますか？また、大事だと思うことは、自分の連絡帳にすぐ書くタイプの人ですか？

発明家で有名なトーマス・エジソンは「メモこそ命の恩人だ」という言葉を遺しています。エジソンは数多くの発明をしましたが、それと同じくらい多くの改良も行っていたため、訴訟問題がひっきりなしだったそうです。よく、それは違うだろうとか忘れていたことなども多かったみたいです。そんな時、自分を救ってくれたのはメモだったというのです。

みなさんの中にも、ノートに書いていたメモのお陰でテストの時助かったとか、メモをしていたから忘れ物をしないで済んだ、ということもあるのではないのでしょうか。メモには、自分を高める力と自分を救う力の両方があると思います。大事だと思ってメモをする時には脳が活性化しているため考える力を育て、自分自身がピンチの時に助けてくれるのもメモの役目です。例えば、先ほどの板書。全部写す人は、実は頭に入っていないときがあります。それは作業になっているからです。大事なところだけを見つけようとしているとき、脳が働いています。私が、学生の時のテスト勉強ではポイントを絞ったメモを見て、さらに大事なことを付け足した勉強を繰り返していました。また、提出物や決められたことをしなければいけないとき、うっかり忘れないようにするためにはメモが大助かりになります。これからの入試に向けて、みなさんがやらなければいけないこと、期日を守らないといけないとたくさんあります。そして、それは忘れてしまうと（間違えてしまう）と取り返しがつかないことがあります。親がやってくれるだろう、先生が何とかしてくれるとは思わないように。進学は自己決定・自己責任の世界です。そのためには、大事なことをメモする習慣を作りましょう。学力診断テストが終われば、自己決定、手続きの作業に入ります。ここからさらに、アンテナを高くメモを活用していきましょう。

